

水・みどり・人がきらめく 安心のまち 活力のまち 土浦

共に考え行動する「協働」によるまちづくり
快適で安心・安全な「日本一住みやすい」まちづくり
地域資源を生かした活力あるまちづくり

3月5日(火)、平成30年第1回市議会定例会が開かれ、冒頭で中川市長が平成30年度の「市政運営方針」に関する所信表明を行いました。本市のまちづくりの道しるべともいえる市政運営方針の内容についてお知らせします。

私は、平成15年の市長就任以来、住んでみたい、住んでよかったと実感できる「日本一住みやすいまち 土浦」の実現に向け、強い信念をもって市政のかじを取ってまいりました。4期目の任期も折り返しを迎え、先人たちが進めてきた歩みと市民の皆様の思いをしつかりと受け止め、これからも、歴史と文化に育まれた土浦の発展に向け、これまでの経験と実績を礎として、市政運営に全力を傾注してまいります。

5年間のアベノミクスの取組の下、雇用・所得環境が改善され、企業収益は過去最高を更新し、株式市場も6年連続で前年末の終値を上回るなど、景気は、緩やかな回復基調が続いております。

政府におきましては、この経済の成長軌道を確かなものとし、持続的な経済成長を成し遂げるため、「経済再生なくして財政健全化なし」を基本とし、少子高齢化という最大の壁に立ち向かうため、「生産性革命」と「人づくり革命」を両輪として、一億総活躍社会の実現に取り組んでいくとしております。

さて、世界に目を転じてみますと、アメリカや中国経済の堅調さが日本やヨーロッパ、主要新興国にも波及し、景気回復のすそ野は広がっています。しかしながら、北朝鮮情勢や中東情勢が緊迫するなど、世界経済全体の先行きは、不透明な状況にあります。一方、我が国におきましては、

しかしながら、来年10月に予定されている、消費税の引き上げによる増収分の一部が財政赤字の削減から、「人づくり革命」の財源へと変更され、また、少子高齢化の問題でも、昨年初めて自然減が40

市民と行政が一体となり、堅実な土浦を築く 「みんなで支えあう つちうら プロジェクト」

本格的な高齢化と人口減少の到来により、地域の連帯意識の希薄化が危惧されている中、活力ある地域活動の促進を図るとともに、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるよう、市民・団体・各関係機関との協働により、地域で支えあう共生社会の構築を目指します。

また、本市を取り巻く様々な課題に的確に対応し、将来に向けて持続可能な行財政基盤を確立するため、簡素で効率的な行政運営を推進するなど、一人でも多くの市民に協働の輪を広げ、誰もが安心・安全な地域社会を築くとともに、堅実で持続可能なまちの実現を目指します。



昨日より今日、今日より明日、一歩一歩を積み重ねる 3つのリーディング・プロジェクト
「つちうら ステップ・ワン プロジェクト」

万人を超える見通しとなる一方、高齢化に伴う医療・介護などの社会保障給付費は年々増大するなど、課題は残されたままとなっております。

このような中、本市におきましては、こうした社会経済情勢の変化に的確に対応しながら、これらの10年を見据え、誰もが安心・安全で、生き生きと希望を持って暮らせるまちづくりを実現するため、新たな市政運営の指針となる第8次土浦市総合計画を策定いたしました。

今回の総合計画では、引き続き、「地域力」と「市役所力」が一体となった協働のまちづくり、行財政改革の推進と市民サービスの向上の2つを計画推進の基本姿勢に位置付けました。そして、市民や団体、NPOなどと共に、これまでより一歩進んだ協働によるまちづくりと、職員の英知を結集し、効率的で無駄のない行財政基盤を確立させ、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

また、私はこれまで、新庁舎への移転をはじめ消防庁舎、市営斎場、土浦小学校、都和小学校、新治学園義務教育学校及び水郷プール、荒川沖地区市民運動広場、小町の館、新治地区公民館、新治運動公園野球場、川口運動公園野球場並びに朝日トンネルなどの整

備に加え、昨年11月にオープンした新図書館や市民ギャラリーなど、本市発展の礎となる事業に重点的・集中的に取り組んでまいりました。

これからは、市民の皆様、新たに整備した施設を積極的に活用していただき、生き生きと活動することで生まれる活力を、市全体に波及させ、活気にあふれた、にぎわいのあるまちを創出します。平成30年度は、第8次土浦市総合計画に基づき、新たなまちづくりを開始する年となります。

本市が向き合うべき課題が山積する中、行政はもちろん市民一人ひとりが、一歩一歩前へ進もうと努力する意識を持ち、その意識を継続していくことが大切であり、少しでも良くなる工夫を続けられ、それが大きな力となり、まちの活力につながっていくものと思っています。

このような考えの下、本計画では、まちの将来像の早期実現に向けて、社会情勢の変化や市民ニーズを的確に捉え、地域経営の観点から、施策の垣根を越え、特に戦略的に進めていく事業を、「昨日より今日、今日より明日、一歩一歩積み重ねる つちうらステップ・ワン プロジェクト」として位置付け、重点的に推進してまいります。

知恵と政策を積み重ねて、着実に一歩前進する 「未来へつなぐ つちうら プロジェクト」

将来的な人口減少の抑制、長期的な人口構造の若返りを実現するためには、出生率の回復が極めて重要な要素となっておりますが、この課題は、一朝一夕で解決できるものではないことから、まずは、結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援をはじめ、多様化する子育てニーズに対応できるよう環境整備の充実を図ります。

また、学校教育におきましても、系統的・継続的な教育により、確かな学力や豊かな心を育むなど、子どもが健やかに成長し、自立・活躍できるまちの実現を目指します。



地域固有の資源に磨きをかけて、輝きを放たせる 「まちがにぎわう つちうら プロジェクト」

本市は、土浦全国花火競技大会やかすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン、日本一の生産量を誇るレンコンなど、既に多くの地域資源を有しています。

さらには、これにつくば霞ヶ浦りんりんロードや県内有数の蔵書数を誇る新図書館や市民ギャラリーなどの新たな地域資源が加わるとともに、本市を取り巻く環境の大きな変化として、長年の悲願が実り、JR常磐線の東京駅・品川駅乗り入れ本数が拡大され、輸送力が大幅に増強されたことから、新たな誘客効果というものが期待されています。

このような大きな環境の変化などを踏まえつつ、新旧固有の地域資源を磨き上げ、輝きを放たせ、交流人口や定住人口の増加へつなげ、まちの賑わいを創出します。